







を	る	ぬ	り	ち	こ	へ	ほ	に	は	ろ	り
同丁	廿八丁	卅今	同丁	卅七丁	卅五丁	同丁	卅四丁	卅三丁	同丁	卅丁	卅九
あ	て	江	こ	ふ	け	ま	や	く	た	の	お
七十四	同丁	七十三	七十	六十八	六十七	六十六	六十四	六十二	六十	同丁	五十九



わ	か	よ	た	れ	ろ	つ	ぬ	な	ら	む	ら
卅九丁	四十丁	四十丁	四十五	四十八	四十九	四十九	五十二	同丁	五十四	五十五	五十七
こ	き	し	め	み	し	急	ひ	も	せ	す	
七十七	七十九	八十一	八十三	同丁	八十五	八十八	八十九	九十一	九十二	九十三	

誣諧番匠童序

凡各公之於誣諧也  
 險如舞女走竿活如  
 市兒弄丸自然寫其  
 風景而不落權設窠  
 臼也貫之躬恒之諫  
 杜甫太白之作亦是  
 發于性情而已論其  
 雅境則誣諧何有理  
 趣之別乎哉  
 元祿三庚春初旬

真珠菴主識

當流辨證番通章大全

目録

序

一 お白付乃る

一 酒八白乃る

一 當流各段乃る

一 西八白小提事

一 裏表月夜のまゝの

一 奇仙乃仕極

一 四十四乃仕極

一 系乃の并 神祇控受主事後述

一 去極乃る 句去乃る

一 殺白切字の 織物乃る

一 和漢乃る 句殺乃る

一 人傳の并 居所所用山歌の色

一 秋乃の月

一 當流で季乃の月

一 くらひの大金 神傘の西

一 系末乃 吳辰 并 引奇

辨證番通章

凡辨證は是れ亦乃一様ゆ

昔同守武宗體なるといふも

と人け道とありとあるは

小むだり人極めを述べて

世よ盛小むだり中法辨證の

是とや川一風神のありと

真なる一宗圓融とて善極

りくとるや一作りぬまは

風神かり作りぬまは

又いふまにありぬまは

どと好ましくぬまは

當流との言やとて

小似されたる人の付合

て付合せどせどして

味の系もふくありの

各那乃のどとて

おれたるいひとて

らりてとてや

は後又のうらむに響らんも知れど徒われ  
 と時と小陰あつたる乃乃乃とこれと物  
 の乃人志あれ九附後か一毛吹葉  
 山の井かきそか古代乃宗通編  
 是れ書多りしといふ時にかはれ  
 足らば色か一氣にふるに西の道風  
 ぬれ物まふのぬれかつたれぬと  
 く書信りぬ是亦も先書はくそ  
 其の流小用かし用ひるぬぬぬぬぬ  
 そ用亦と書板又の何くぬ書かへ  
 初心の乃ぬらんくしとふ書しと  
 九乃くしとぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 小書師ふふもぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 何かぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 移くぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ひらひぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 と右付と又とぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

○前句付乃事

古流中法尚流乃付心のさひる  
 のお白小く付且けぬ是もあぞ  
 らと化ととるべし

お白 萩乃流らるる持の家

付白 月あしと二人お茶とて一白

是古代乃付やういお乃るるとお  
 茶乃も小のしとく付らぬり  
 又中法宗因風乃何ん

是方のみよととへか松の風

是もお茶乃もはくく付とぬぬぬ  
 お茶小いさくぬぬぬ付萩乃ぬぬ  
 ちるぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 ひたり又浪乃と系高付といふか

蕎麦皮と焼え煙わらんと  
 是格神ぬくく備ぬぬぬぬぬぬぬ





かみ統りて後流あはれ垣下 如泉

雲外里男也心む夕中 和友

編書や二杯して心む小松系 江丸

蝶嘆と登新縁の垣根か 和友

多縁ふしひく垣根つゝ風情切り

ろね夜白

古池や蛙さびしむあり音 芭蕉

名乃村ねおるゆる山橋 湖春

花さけと鳴るお前の轂式 江丸

三言堂は何様も又さりなり 和友

け敷の上よあ人のと小色むく卯一は

格初心のしら小好びぐりしはよれ白

いまれゆり右二京の縁ぞんけてとて介

脇 右流い進前乃とく神は海く

あまひわれは今の大板が夜白と系

気おれが系気おとくわいらひてよ

一よふいにくるるるる好ひを道

ととけはは系近流もゆるとるのみか

まばあふいともあもまどと一何下は

歌まともあまらあまらあまらあまら

いととてぬやうふとて

才にてとあうりあてりてりあ合

あふらんどもあどあしとあふとあ

とあひせぬがうり一四季の月脇と

一回一何言あしと才云あは海と

りて一後白と立去乃夜白なまら

根い五月の初才二の縁生の心と

又三月小後つ物ととて一まあが

産うらりくも果あどれは五月より

二月と月ら物と交秋とやとるあ

多一板付心いらすくた一句のつけ

とくく場とくあまらとく是夜代と

乃法し歌まともあまらと三上あのと

小とらるるすはれた物心のうり中の

位までせぬがうり一只くしてあらん

とあ二の四あどせぬ物とん好べと

甲白め 古代より甲白のありとく

かろくことら法と付あはうすくた

一句とくくこととてりあああり

とああうるくはとああああ

又白月 六句同 三句 細めたる  
西のうらみあつたれどやうよこし  
くともこ下

七句同 夜白銀 三句 月夕の  
は白月の常夜 秋乃月 三句 下  
ハ作の春乃月もろくかじど

八句同 七句めと月夕の三句 合  
あれは夜白月とるもわりこがれ月と  
りあり地あどくはせぬぐり

面 八句 時事 無 常 夜 宿 祇  
祇 天 夜 宿 天 夜 宿 天 夜 宿

同字 祇 祇 中 中 中 中 中 中 中 中  
祇 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

名 下 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
裏 十 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

又 十 句 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
秋 乃 素 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

より 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
ち 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

引 上 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
白 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

と 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
と 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

三 乃 表 裏 十 句 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
三 乃 表 裏 十 句 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

名 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中  
名 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

○ 奇仙乃仕様

奇仙桃傳といふもの西六句うう  
十二百名所地りくと十二百名ううう六句  
てつと三十二百あり月ふ乃た表  
十一句め花面又白月の空をた表  
六句白月せと百款入る地り  
と回あ

いふく連奇ふ奇仙乃漢の名と  
三十二句白と立入く伝三三句  
あくく桃傳あくく名とつて  
て教じり三十二句白とあり

○ 三十二乃仕探

三十二で桃傳といふ百款の法と初  
ねと若地りううくと二ねあく  
三三乃ねとねとううと百款乃法  
ふあり

○ 三乃組

三乃山。三の淵。三の海。三夜。三  
ふ。あく三。三。三。三の三。三

思 三の川。三の山  
くねあく三の淵。三の川。三の山

洞 三の海。三の淵。三の洞。三の神。三の海  
神の海。三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

情 三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
神の淵。三の淵。三の淵。三の淵

傾城 三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
白梅子。三の淵。三の淵。三の淵

くうん。三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

三の淵。三の淵。三の淵。三の淵  
三の淵。三の淵。三の淵。三の淵

一 亥 辰  
一 巳 申  
一 庚 亥  
一 辛 辰  
一 壬 申  
一 癸 亥



後の付 何はう。灰う。 糸見

そのい 寝 出 家 家 いかに二奇の付た

多し 備 消 ぬ も 屋 じ つ り ぬ り け ぐ

お ぐ れ ぬ ぬ ぬ ぬ と ぐ ぐ と 倍 ぶ ぶ ぶ

急 乃 詞 流 流 の 燃 焼 只 用 い ぐ ぐ ぬ

見 と 器 と

急 の 白 二 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白

た 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

お れ ば ば ば ば ば ば ば ば ば ば

わ げ り ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ど れ 書 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

お ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

い ば ば ば ば ば ば ば ば ば ば

急 の 白 白 白 白 白 白 白 白 白 白

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

急 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

おん 佛供養 返法信 石のそり括

社宜 かんかだま 社人市籍振

社勢 社家社信 伴誓 社日 社日

社人 社子 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

釋義乃句

法蓮連引 内帶 大ぬき

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

社山 社山 社山 社山 社山

○ 聖人上人和南 為雲 為雲

行堂 阿彌梨 傷心 傷心 法界

法眼 法眼 持提 願者

此亦 傷安 宗有 小亦 此何り

皆天 教之 經福の 名み 皆之 意

つま びく 久い あり ます

○ 述懐乃何

前 述 親 友 亦 一 人 入 心

聖 迹 の 神 世 の れ 世 じ づ づ

於 人 臨 臨 臨 大 方 以 心 通 祈

律 乃 終 終 念 念 念 念 念 念

病 若 乃 さい 介 介 介 介 介

述 懐 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

述 懐 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

ひ じ り 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

○ 哀傷

記 聖 帝 の 煙 かつ ぬ 乃 古 統

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



右進新乃神に花乃さこ人おれた  
後より 自害のやうの事か  
傷心ふとわりの多し 悲しき備  
ま後乃の切りまわくふらとけ  
不器とて

○ 去煙乃事

二乃去 人御危ふと竹をさ  
かりなる種也二乃さここ物とひ  
くのどくかりなる生れ二乃去  
多負物何かと時かと二乃かり  
月日星かりて天象のなる二乃さ  
三乃去 山に鳥を生れけこ物こ  
うとく 林に鳥を急を常  
后も同ま 種神 種か時か物とく  
風と風を教とく 雲とく  
種也とく 木とく 草とく

又乃去 月杯舟菱竹教後  
燈田同香

○ 後乃乃切字の事

かかり ありや そ  
ー ー さ ぬ び  
ク ぬ い さ ぬ い け  
いそ なをい く きせとそ くれ  
と ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
いでよ 何せ せ せ せ せ せ せ  
心家らとせかたのふよめ ぬか  
月おわけ ぬれれれれれれれれ  
はみ大より 三股切をさ切字  
切字とて事なる 留と切字  
ニま切とて事なる 留と切字  
只いのさぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
むむぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
引とて事なる 一の切字にぬぬ  
祝物事

紙地のあまのりすしして紙の皮を剥  
いて面をうらりん 糸を分るおふ紙  
物乃あまのりすしして紙の皮を剥  
つるものなり

紙地のあまのりすしして紙の皮を剥  
て色紙すしつれいすけ紙と云事  
紙一敷りおふさうひ何れも色紙  
をりしとるじさへい山紙の皮  
白ふたさうのりすしして山紙の皮  
る故あり竹う山紙の皮を剥  
るべし紙の皮を剥りてかざり  
一字あまのりすしして紙の皮を剥  
紙地のあまのりすしして紙の皮を剥

○和漢乃々

入款乃まのりすしして紙の皮を剥  
いもろ乃のりすしして紙の皮を剥  
乃まのりすしして紙の皮を剥  
と漢くんぬりすしして紙の皮を剥  
和と用べし漢和と云ふは漢も和も  
款あり

○句教乃々

入款乃まのりすしして紙の皮を剥  
いもろ乃のりすしして紙の皮を剥  
乃まのりすしして紙の皮を剥  
と漢くんぬりすしして紙の皮を剥  
和と用べし漢和と云ふは漢も和も  
款あり

○句教乃々

入款乃まのりすしして紙の皮を剥  
いもろ乃のりすしして紙の皮を剥  
乃まのりすしして紙の皮を剥  
と漢くんぬりすしして紙の皮を剥  
和と用べし漢和と云ふは漢も和も  
款あり

あけの暮秋たれ一白あけのあけ  
ど二白はぐく

○人倫ふたの分

醫師。傷地師。村の字六尺。  
花のあけ。伯示。番近。ぐくら打。  
つれた。こつれ。年。空人。  
望城。夜。山城。海城。これ。  
月乃あけ。草州。かこ信。  
飛治。かこ信。かこ信。かこ信。  
ゆの。かこ信。かこ信。かこ信。  
他人。かこ信。かこ信。かこ信。  
月乃あけ。月乃の友。あけ。兄。  
尼。あけ。縁。氏。同。氏。  
旅主。若。若。若。若。若。若。  
大支。こら。こら。こら。こら。  
ひより。多。多。多。多。多。多。  
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。

○他人倫分

六親。人。人。人。人。人。人。  
代友。大。大。大。大。大。大。  
あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。あけ。  
百姓。目。目。目。目。目。目。  
俗。俗。俗。俗。俗。俗。俗。俗。  
居所。居。居。居。居。居。居。居。居。  
居。居。居。居。居。居。居。居。  
標。標。標。標。標。標。標。標。  
隣。隣。隣。隣。隣。隣。隣。隣。







跡也。木の目下りえくくり。  
菜花。ある。新菜。物も、ある。  
とれ。おんのはう。梅。まつけ  
旬の事。冬あはる。冬。と梅。梅  
臘梅。乃か。春。柳。柳。柳。  
月。川。川。川。川。川。川。川。  
と。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。  
多。堂の翠。堂。堂。堂。堂。堂。  
さか。柳。柳。柳。柳。柳。柳。柳。  
き。う。う。う。う。う。う。う。  
梅。梅。梅。梅。梅。梅。梅。  
く。く。く。く。く。く。く。く。  
た。た。た。た。た。た。た。た。  
前。前。前。前。前。前。前。前。  
美。美。美。美。美。美。美。美。  
あり。あり。あり。あり。あり。あり。あり。

二月 小正月  
物午 山月... 小正月  
乃せん... 正月... 乃せん

乃せん... 正月... 乃せん  
一... 正月... 乃せん  
二... 正月... 乃せん  
三... 正月... 乃せん  
四... 正月... 乃せん  
五... 正月... 乃せん  
六... 正月... 乃せん  
七... 正月... 乃せん  
八... 正月... 乃せん  
九... 正月... 乃せん  
十... 正月... 乃せん  
十一... 正月... 乃せん  
十二... 正月... 乃せん  
十三... 正月... 乃せん  
十四... 正月... 乃せん  
十五... 正月... 乃せん  
十六... 正月... 乃せん  
十七... 正月... 乃せん  
十八... 正月... 乃せん  
十九... 正月... 乃せん  
二十... 正月... 乃せん  
二十一... 正月... 乃せん  
二十二... 正月... 乃せん  
二十三... 正月... 乃せん  
二十四... 正月... 乃せん  
二十五... 正月... 乃せん  
二十六... 正月... 乃せん  
二十七... 正月... 乃せん  
二十八... 正月... 乃せん  
二十九... 正月... 乃せん  
三十... 正月... 乃せん

初極 系極 うぐし極 けさ極 苗八  
 葉 燐野 山之極 芝と極 ころろ  
 乃極 畑極 畑之と極 畑の 直代  
 ぬは奈 燐野 畑之と極 畑の 直代  
 麻まき ぐじ ぐわつてく  
 夢川 夢 枕葉 防風 さらたつ  
 袖中抄 夢のうりこ 夢のうりこ  
 あじき きたり 角ぶつ  
 葉 雛 魚んが つかうま ぬま  
 蔭 沢らさ 川ちと 海雲 紙巻  
 ののがり 又たこらさう

三月 誕生 花見月 極月 豊村 三月 季去

己目のしんへ 上巳 極病のどくどく  
 曲水の宴 桃極の節去 桃の酒  
 夢餅 小い多合 柳のうら  
 葉蘭 葉除ち乃 寂勝去 七日 天武天皇の  
 金清 徒花の糸 林極官やわら 冬食 冬至  
 百五日 介子推り 鞆體の威 米仙の威 食  
 故事あり 信吉の極干 言

去作乃 海極 九月 極 山系  
 粟津糸 水の尾糸 九月 やらうひ  
 比良糸 十五 至生念佛 止四月 ころろ  
 乃 大志 仏 十五 千如志 仏 極 寺の極  
 極 寺の糸 止 月 止 月 止 月 止 月  
 九 糸 供 止 月 止 月 止 月 止 月  
 頃 の 峯 入 極 大 峯 入 今 永 三 日 止 月  
 友らさ 友せり くれ乃 去  
 ゆる 表 表の 取り 表の 名 訪 止 月  
 の 漆 表 止 月 止 月 止 月 止 月  
 乃 樂 ぶと 名 雲 小 入 名 極 月  
 表 務 あり あり あり あり あり あり  
 極 貝 極 貝 極 貝 極 貝 極 貝 極 貝  
 小 結 止 月 止 月 止 月 止 月 止 月  
 桃 極 桃 極 桃 極 桃 極 桃 極 桃  
 花の 綿 花乃 雲 花の 名 雲 花の  
 花の 波 花乃 雲 花の 名 雲 花の  
 花の 車 花乃 雲 花の 名 雲 花の  
 風 流 極 天 皇 極 事 花乃 雲 花の  
 山 系 止 月 止 月 止 月 止 月 止 月



海棠 うちわい 孫ぶまの意

舞美 日よ 木筆 柳馬

山吹 木匠の意 況下

木蓮 石菊 藤方の意 木

花 小まもり 夜橋 松の意 柳

乃さう 柳の意 揚梅の意 松の意

散 散波 散のり 茎つやをい

菊 花のこころを 新茶のき

茶 茶つと 朋系と友ふ 花のかり

あけま菊 けうらひ菊 振るき

九柳 菊の七重菊 くら藤 花の

あびし 金鳳 けんん 丁子の

意 肩のりの意 をあきこ けいどり

とやうが竹 あけのき せんもん

しらくら花 花のたけのけり 山吹 花の

うきこ 花のけり 花のけり

夏 朱明 昊天

四月 卯月 卯の夜月 得る花の月

交衣 白かき 花のけり

わさよ きのき 花のけり 花のけり

祭 山科 松乃尾 花の月

當麻 花のけり 花のけり

五香水 浴佛 日香 花の山玉

参 加茂 花のけり 花のけり

柳 天 花のけり 花のけり

麦秋 花のけり 花のけり

月目 花のけり 花のけり

花乃 花のけり 花のけり

二系 花のけり 花のけり

射干 花のけり 花のけり

若友 花のけり 花のけり

花相 花のけり 花のけり

新緑 花のけり 花のけり

柳花の花 花のけり 花のけり

乃花 花のけり 花のけり

山菅乃花 花のけり 花のけり

乃花梅の矣実梅竹のみたらんか  
うらうかすの子女なりぬき  
養道乃石振部云々  
細農のきかんこ者をんる  
原夜口とやしくしる  
柳より虫蚊蚊帳蚊柱卵花散  
短夜めやたらぬ 変入 変花  
のらぶれぬ

五月

五月み五月  
乃乃五月仲夏

加茂乃足柄 わすつり  
首あめあつ冒内猪目借早山  
よりなる 融痛 むね振さう  
鬘眉乃 茶玉 くのり  
長命綽 陣条 又 綽綽 綽今綽  
篠連 某日 五月 某原稿  
艾人 蒲人 艾鹿 於園と射の  
百までとつかりと 佐吉の所  
か瓜乃 藤子 蝶乃の 花乃 巻乃

月命ゆと色かり花つると  
乃蘇州舟水布と列 蔭の  
娘ゆり 尾ゆり さゆり  
乃の玉 此ゆり 玉 玉  
乃玉 家高家 玉の玉 未梅  
物 忘れ家の玉 玉  
石葛 全治花 玉  
松茸 あさひの 玉  
白ゆりかりさ 天の玉  
生らるる 柳の玉  
山枕の玉 玉梅りら梅 あんびび  
山林 玉竹 と年竹  
ささへ 玉田 玉  
さゆり 八月の 菘  
くり欠 あまれ果 玉  
水鏡 物川 玉 玉  
ひとへれ 玉の 玉  
思村 火串

六月 みる月 風待月

水乃地乃水 水乃の宮水 乃橋 水乃橋乃一秋酒小三行

あまの酒 六月五日 津治乃尾列 勢回乃

十四日 山王乃 十四日 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

七月 七月 七月

一系一系の系 桐柳乃

小野の山乃 七月 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

乃下乃 乃下乃 乃下乃 乃下乃

山の草 入 山の草 入 山の草 入

の南 杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

杉 杉 杉 杉

為志行爲名花小萱花紫  
煙花紅志紫苑花の志こころ

月草 露草 喜花 菊 菊の  
花はなの志こころ 花はなの志こころ 菊きくの志こころ

乃美 乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

乃美の志こころ 乃美の志こころ 乃美の志こころ

色見草 くのち 四取を記す

梅の葉 楊の葉 柳の葉 ぬぐて

乃の葉 居れ木を 瑞葉の葉 柞

櫛 松乃のくく 松のくく 桐 楓

松のくく 松乃の木のくく 萩 柞

柳 葉 標 蜜標 合標 九年母

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

柳 葉 柳のくく 柳のくく 柳のくく

十月 小春 陽月 應時

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日

神送 十日 神出 出雲 五日



十二月 作乞 去訪月

乙子乃朔月 由佛名 十九日 かつけ給

松名の有所 由發上 肝年 初め乃使

十日ありと 帝后ありの 日侍取入かへ

後入使とて 帝后ありの 日侍取入かへ

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

大徳寺 同山 三昧 歌 乃 延 乃 延 乃 延

○い 當流もいひ大全

岩舟 ありき 小い び 来乃 字 小い び

娘 天 磐 梅 舟 又 同 下 松 子 小い び

三 部 殿 どの 也 ぐ び ぐ ー 小い び

侍 勢 の 神 名 和 之 侍 勢 梅 小い び

梅 小い び 冠 侍 勢 輕 小い び 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

あ ぐ ぐ 小い び 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



よ赤ま赤流まかりて悴粉か  
もに一つあり

若一彦小二いり一若屋一かやうの  
言の掛いれとてくし傘小若一

いり一又ま若若く若ふふ若て  
一若も一せれと若ふら若て一決槍

乃若火大若若の若山若也二の四二  
若橋山若若の若

若火大決槍小若とてくし傘小  
いり一又ま若若く若ふふ若て

若一若り八月十八日若の若も  
若若若中若若若若若若一又

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若

岩屋 辰石は打うとさうふ  
石小岩 西谷屋 辰石は打うとさうふ  
石小岩 辰石は打うとさうふ

いぢま 辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

辰石は打うとさうふ  
辰石は打うとさうふ

てニやりねとるあべー

づいての二三ありニづくての四のり

いふ人ニ昔お七の娘古のふふ二句こ

金お大おと中お性古た代た今ま

おもえ乃の思ふかいやいふこふふ

る故知り古娘古人を古古古古古

おのいふふふ二句さるあり

づりり只二子焼と古た何の定定二百

命二をさるこ物おの命又ニ村とてさ

なり命お命ニ命にこれと村とあり

出の命に玉のと二句ま又又の命と

と又の命とまふふふ命あ懐と

いさ二花軍一命お花軍まふ懐と

是のまふおとやうさひとまふ懐と

まふうらあひあをさるふふ

大一をれらる大物一は二何とを村と娘

系おおとくとては但おせおおあう

おまふふふふふふふふふふ

いふおんはさるさるさるさるさる

命お上の句下の句おかりてさる

句乃中お又おえー

○ろ

樹飛西の神々命おニあり

庭橋小庭面と庭お庭お庭と

○は

樹只二名お小ニ村と庭命お持只一

庭およ一樹一は持二又とくに庭お庭

庭お庭お庭お庭お庭お庭お庭

庭お庭お庭お庭お庭お庭お庭

庭お庭お庭お庭お庭お庭お庭

庭お庭お庭お庭お庭お庭お庭

庭お庭お庭お庭お庭お庭お庭

あふ一樹の字は計あふ一西と樹と

あふれ神と樹あふく雑あり

あふれう念樹のうら面と樹あふれ

かりていと白去之傘あふれ竹の

とあふよ白去之傘一産あふれ

とあふて一白上あふれりの神と一

産あふれ乃らりあり

樹あ 樹あよ二白と

あふれうぬま乃して樹のし松のしあ

うふあふ

あふあのと二白樹洞と云くいあ樹

あふてあふ極七白樹傘あふれの白極

めりざら白あふれ付てもうろりあす

極よあふれ付てあす

あふれあふありあふれ何もあふれ

あふれいりあふれ極よ二白あり

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

あふれあふあふあふあふあふあふ

傘ふき見二雲の風一ふきよ二  
上戸のありけりや

物のまじりてふくむく又さし  
しつは物も袖まわく西風さし

始乃まじりて第一く三三三又さし  
まじりて物も袖まわく又さし

鼻一とまじりて又さし  
物も袖まわく又さし

杖しと酒かたれは又さし  
物も袖まわく又さし

小橋ゆく秋の物も袖まわく  
物も袖まわく又さし

花とむくささふ物も袖まわく  
物も袖まわく又さし

日いろふくささ  
物も袖まわく又さし

去乃文去さささのいふ傘  
物も袖まわく又さし

花乃さささささささささ  
物も袖まわく又さし

花の書さささささささ  
物も袖まわく又さし

花の宿月の宿物さささ  
物も袖まわく又さし

花の雲さささささささ  
物も袖まわく又さし

花やうさささささささ  
物も袖まわく又さし

花とむくさささささささ  
物も袖まわく又さし

花のまじりて物も袖まわく  
物も袖まわく又さし

物も袖まわく又さし  
物も袖まわく又さし

く後より興業めど入やむりり  
ゆいあきふあしど

鼻よ白ふぢぢぢ付らむらむら  
汁ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

よかりくらぐらぐら  
法師坊まらららららららららら

人極あり一松ふ枝二句ららら  
らららららららららららららら

らららららららららららららら  
らららららららららららららら

道真秋一屋小一夢ららららら  
くくくくくくくくくくくくくく

おららららららららららららら  
系しとととととととととととととと

兼乃系あらららららららららら  
ふらららららららららららららら

えいまあり系乃乃乃乃乃乃乃  
ドまららららららららららららら

肥後ふららららららららららら  
ま守乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

危火祓祓あり冬あり危小西  
と危傘小祓小乃乃乃乃乃乃乃

らららららららららららららら  
らららららららららららららら

あしどとととととととととととと  
危只二も小一皇危小一危のや一へ

い危あられた表ふるらららら  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

危小初陣乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
危乃つた山山おあららららら

危乃つた山山おあららららら  
危乃つた山山おあららららら

危乃つた山山おあららららら  
危乃つた山山おあららららら

〇に

贊祓祓あり生れふ二句ららら

くやととととととととととととと

傘小勢の心表又小神社あらら  
生あらららららららららららら

る表祓の傘乃乃乃乃乃乃乃乃  
えいまあり系乃乃乃乃乃乃乃

ドまらららららららららららら  
肥後ふららららららららららら

ま守乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
危火祓祓あり冬あり危小西

と危傘小祓小乃乃乃乃乃乃乃  
らららららららららららららら

らららららららららららららら  
あしどとととととととととととと

危只二も小一皇危小一危のや一へ  
い危あられた表ふるらららら

山はよ二百さうし

第一夜言一よりれ乃も二ツ目とて  
夜分なり但語い句種ふより夜分  
小あらし傘ふもれ乃もさあり  
そごけ意長ああり

た云一あは一古女尼一

おどやろ 野ひの若う乃河二斗ら  
おどろめどく人言黙ふなりて二  
どろりるべー

おゆひよ者七句さふ

おとゆり乃下の句二どろりるべー  
おとゆりふまひくことありゆあ  
ある二あ方あ儀あどく又二も

あべーさおどかあべー

滑ふもりの句つら傘小回さふ

かうさやいふ句他り句べー

かたあめいあべーあべーあべー

句ふよあべーあべー

懸る竹の子柱はよ二句なり是を

とていひはけ日集るさこのめ

生れよらお訓娘いささあをさお水と

おゆれ海若あよ二句さふ

おどろりる同ま乃二句あり

おとゆりふまひくことありゆあ

とまりの二句さふあり

ゆくとゆり乃句のうらふゆあ

よんしをひくぬお心のりあふ

ていさあふす

場一むとて一ちやうとあふく

一以上とて意の字お由とてあふ

うとあふくあべあふあふ

○ほ

野一お牛一さあ二星は二ばら

と極的のり一星目行ふ表ふ可ら

洞二極二かりふりあて極かりあ

二句さうあり

極にしやあゆれはははははのり

あふゆああふあふあふあふ

よあふあふあり

仏は二念仏ははははははははは

おれは又二もつら何れもれど  
佛も善哉始末は小面と屋  
雲 秋もさあ色小帳ど傘小れど

之く二あり  
牡丹 とうと茶は目茶。てらや茶は  
うりやうら小二うへー

郭云 善哉びとびて色友あり  
傘小云く二之杜解子能く  
さうお乃らかり

かゆくと云何多飲ふかりて二あり  
布袋 入敷人備ふあしど袋よ  
付らゆ娘△やこ衆分さる

干能やいづのたう物ふあ娘  
おれんしてのわねやとらりあそ  
やう 意よ一 老よ一

帽子ふあがりおとさる  
細江名ふは帳どつこの細江名あ  
○へ

色この字は 色はは外あり  
色は名は二あり

平あよあ二あり  
種れ字は月日紙紙のたあり  
下と一あり多の七句さる

秋屋 酒屋やといへる。響や。さうの  
物に二ありさる

あうらん 橋ふさげさるさるさる  
おれんさるさるさるさるさるさる  
おれんさるさるさるさるさるさる

○と  
聲の的 秋ふあさるさるさるさる  
燈も傘も十月中の辰の日と又  
乃露け付ふる又日か紙ふ敷乃

字とさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる

さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさる



を里小聖 居而居おし傘小持河  
乃ちちふる居而の二句あり

戸八はけ外ふとどろどろとどろと又とどろと  
戸ふと戸下戸二句去

戸とあつたにむねのくろ二句と  
とどろと戸下二句あり

戸ととどろと戸ととどろとにむねのくろとどろと  
戸ふと戸とどろと七句短あまれ戸の

戸ふとあつたにむねのくろとどろと  
とどろと又とどろと

とどろと又とどろと  
二句あり

戸屋 戸ふとありあつたあつた  
戸ふとあつた又とどろと

戸ふとあつたあつたあつた  
友二人傷あり付ひ二とどろとあつたの

友あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた



前書も折で短傘よりうらひの  
ておろそかにしつゝあり  
散花書おどひかりりていと白き  
花お紫のちる面と短傘に散のなき  
思 思ふ思はらと橋おろしお入る  
思より子面紙とくふ  
茶只二茶つが茶葉おどれうらよ  
茶雀一折も折とくくもく  
茶深茶せんぐも木い表ふる作  
茶せんと同くともおどちよ一あり  
ちざり只二 志よ二

○  
神の洞 秋之 新神あるを神紙之  
新夫 あるを神紙おつくと  
新虎の跡 あるをにわくと  
○  
○ぬ  
とわれいおのひ茶お折とくく  
とわれいおのひ茶お折とくく

ぬまニ ぬきぬつて神紙  
ぬ 一人備小帳とわどい人備之傘に  
主も人備之傘を看と云て人備之  
海舟 一人備おやとつとて人備と  
ぬんおおとわかのさゆりつれと  
とまりおとて表ふるへー傘よ  
ぬんつらんおとれとまりとつとつ  
傘一とまりおとつとつとつとつ  
ぬんおとつとつとつとつとつとつ  
りど  
早ぬのぬのる二つありおれぬに付  
とつとつとつとつとつとつ  
ぬくおおぬれておどれおとつとつ  
傘おぬくおとつとつとつとつ  
ぬんおおとつとつとつとつとつ  
緒乃小袖にぬぬおとつとつとつ  
ぬくお小袖もすおれおとつとつ  
○ち  
ぬんおおとつとつとつとつとつ  
ぬんおおとつとつとつとつとつ

るどまりニ白らむれりかえらむれり  
おどれまふ人のあはれ  
らんつんぬらん乃かよらるるあ  
らんゆらんぬんのあはれ  
○を

只二名およ二傘よ思ふこころの  
名字おどいえてもこのうらむ

小笠二名およ二小笠小所もこの目じ  
おどくくくくくくくくくくくく

人乃病家もこのうらむりあり  
を近二とりととるとり三傘ふとりと

とまぐくくくくくくくくくくく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

小あひ一あまどあひ一あまどあひ  
おとが三白をあり

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

とりととるとり二もみぐく  
とりととるとり二もみぐく

め猶め大めとりめおれいんおれおわご  
まの女あも女性あも七句さうさうさう  
人傳あも女傳あも女傳あもさうさうさ  
てとさうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさ

○わ  
我乃王天子とさうさうさ大表おと  
ふ人傳の外あり

王よりさうさうの王の山原おとさ  
面城さうさ

王乃の王で天王おとさ三句さ  
山田の原 山田山田山田山田山田

和奇よ 和奇山田山田山田山田  
別也三句 三句三句三句三句三句三句

とさうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさうさ

り神の表 縁あり

無乃縁のさうさうさうさうさうさ  
い七句さうさうさうさうさうさうさ

別也三句さうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

とさうさうさうさうさうさうさうさ  
わさうさうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

無乃のさうさうさうさうさうさ  
七句さうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

わさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさ  
さうさうさうさうさうさうさうさ

こゝのひかりえ物ふあはばまどりのを  
うらぐらゑ物よあかへー  
わしれ草雜くくらんぎうのよん  
花どじまびてなまこまのま二百こ  
綿ふめん二百わり  
りしれがごと 雜のまふ二百こ  
まこと 夜敷しをこ

○か

神只二名の神一各所の神一傘  
よ神定うらひの神 天神 天孫  
おどきふふまてまへー神く  
といふまへー

神よ 神神神ま神ま 西と姫  
傘よ 神ふ神ふ 七句ま

神云月ふらぬ三句姫

神よ 神かり三句姫 傘ふ付てま  
神ふ神まびてと云河七句姫 傘

河とまびといふ久とま右 壱居  
深山地 壱居の只物まびくま

まのめらば神付てま

外系乃るまわとま  
いと神定乃四と久とま 神  
祇乃ことまよま

げりふ 雜くげりふのりあま  
ま乃ふま ぐら秋の傘ふげりふ

祝くま 右今の祈ふとま 壱居  
らめま げりふのりあまの目と

かみ 物まどまのら 陽素とま  
まの目れあまのら 時薨のうか

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

まのら くと 服ふま 壱居  
まのら くと 服ふま 壱居

川舟旅小地と浦中くもつたは舟  
小舟舟も旅小地と後の川舟舟  
舟舟とつがそへ舟舟舟舟舟舟  
二句きしふし

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
又里舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
今一舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
二句舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

枯葉なりニ黙りニ川なりニ山  
おがら小窓し橋より草うり霞は  
あぐり△楓よりうり西の空は  
居るニ秋ニ居る小窓をひびいて  
も秋のかりもさびしうては秋の  
故郷をかこ傘は秋をたたくて又故郷  
さぐりうりやいふのこころ

かきまののりゆりゆりゆりゆり  
秋の付くもわなもさる傘下よま  
点の月おぼろふれけけけけ  
おりうららけけけけ

待只一入あの一入敷に只小窓  
小窓一かき秋をかき待たぬ秋を小  
帳と

待小ひびき。あどとどどど二句  
かき 楓と云ふ小付句と候  
風よ 風好風好なり二句あり  
ふご一もれ子一ひりこ又さぐりま  
云はすのいごと句  
看は 天蓋し△度小窓なり二句候

風よ 雲をかきけりかきたふ三句候  
乃ひきと秋乃々句とい二句  
風小もれまぐり二句候をれり

冠 衣は小帳と傘小冠只下句  
今一より小帳とふひりゆりの相付句  
身と袖のりかき冠木と云故三句  
候小ひびきと乃汗の字二句候

身小汗付てとさ若汗ふもさ候  
敷乃字ニ三よりイまでい面と候  
候かきと色面にうらさ方小候と候  
かきのみとささ衣は小帳と候

傘小かきとのゆり雨の音と候  
所敷若根衣のづれとくくことと  
とさ方候かき汗敷小帳と候

かき小窓傘小ぬらふと候  
かき小窓傘小ぬらふと候  
かきと二句あり

かきと久 難し秋かよ何と  
笠一から笠一柄のたき一笠一柄



ふかりてはもろくべーがれもれとて  
是小あり物さうつじと

か何と云相と白玄し

よりくるんえつるるん小二句し

かりぐりくあ物よあつじと

返返びる二句かり

く返びる二句候

次の書や小也どはわ小也どと云候し

候小書とむじびてと書し候し秋

とど書し書も立しは故あつしはよ

ひるれと書あり

秋系陰びる答二句し日びるへび

候し秋乃字い字と云あり

陰よりしと云かかれ秋二句し

合戦一いくさ小れと云しよ

かゆと云か河二句したとへつらと云

よひやうん書やれの河のる二句候

か二と云二びるれと候候よりり

と云西風と云しよ

候か書るのさつじのさつじ二句かり

掛只一巻およ一

川田植地小二句し思とつる書とつる書

と云と云と云と云と云と云と云と云

て二と云より小小字もたね小二の外に

茶と云る二のさつじ人傳よあつす

かりあつらりやつらとてくのり面と候

かふふ意よ二只二又凡あつらつらよ

西風と云と云と云

川のりさつじを小あつら秋と

川書れぬあり物あつらとてあつらと

と云つらと云つらと云つらと云つらと

あつらと云つらと云つらと云つらと

うげの草物植地あつらと云小二句し

かつらと云つらと云つらと云つらと

弁仙く傳あつらと云つらと云つらと

力た力小力けりれと候候と云つらと

と云と云富田酒力いさつらと云と云

麻と云つて難し今茶と云るは茶の

二世王乃運長續と云るの秋候と

と云と云麻と云つてと云と云と云と

かろりめく云何の形にぞり可き  
傘小丸う一かろり一かろり一  
友とかり平あくるあどけらりふ一  
心三三心伝海鏡あどのあよりふ  
いふまをかりいらげもまべー  
難くさるそのいさどそ七句傘一  
こたふがそ三句あうさたふくぞ  
ふくもまかとうまこ  
かろり一と云何二ぞりあろり  
傘小丸棒とろく三心  
雲乃まやんし▲かここ夜鏡  
あのおとまこあろり他どそびに道  
かどまりふく馬湯のかりあく二句  
おろりてふとまりあろり二句  
○よ  
他小目おろり二句極く只目とまに  
小丸おろり二句傘小丸と  
云何傘一三心一三心  
代只三棒代一傘小丸代一棒  
代一又ふくと傘おろりては上二心

代よ世三句  
世只二志懐二心乃世二念小二浮世  
適世の志懐の世り世乃人の平世系  
世は世の心世あり何し面と極平世  
とくのものわらば極志懐心世同の  
傘小丸と世志懐乃世心世念つれ  
これよまろりと六句あどろり  
おどけ月時か少もあかむも世と  
おれまろり三句  
秋の文のたふおろり  
秋中二青二傘小丸二あろり今  
青あ青時青あどけらりまべー  
青時か小娘ど秋のまふ三句あり  
よりだの右極ゆゑあど  
蓬生 他小丸二句とろりだどろり  
他小丸極傘一蓬生のあれは松  
蓬生あどの生るれどろりれまろり  
あどろりまべー蓬生二心名一蓬生  
蓬生あどけあろり今一と  
よらろり小丸あろりあどけらり

こしこ

終つひはむ二句短世句終つひふらふ  
し本只三念小二念小只三念小  
世のゆらに戸のあふ付句世短  
まよまがめどれよが二念三念  
又しこよめどれよ

うらとままふ二念小古今傳文の  
只まのしとあめとくしてこ  
ふらと二念三念ふらと二念  
世のままとま一しとふらと二念  
あり終のままとまこれとてこ  
○た

大玉林待り余とと素うやう乃  
れ二念に二句のあふらふら  
う終しけまけら面と終余小若根  
たひととととと

竹ふらひあふらふけとてととと短  
竹のゆめれあり  
う終二念二念小只三念小一又とと三  
も乃終八かるとととと八のうらと

とれ小若雨のう短ととととと  
竹小系竹あふ短竹ふとと竹とと短  
玉八の余小玉とととふと又ととと  
玉一わと玉の字二句短別小一字も  
若只二名小二念ま只二名小二念の  
戸若雨とととと八のうらと若の戸  
小戸の七句短余小若の戸小面  
短戸の八のうらと山短若雨二句  
竹よ若雨末打短とととと

竹小結ゆん後二句短竹ふらとととと  
竹小川竹三句短竹若とととと  
終只二名小二念の終とととと  
表あはふらととと

終山終し終河川山終小終と  
竹のま終終之終ととととと  
竹とととととととととととと  
堂二とととととととととと

塔只一若雨一石塔とととと  
棚ととととととととととと  
終一ととととととととととと

七夕 秋分 月日 二日 延月 日あり  
ひびく 秋分 あり

七夕 七世 七世 あり あり  
七夕 小天 小天 あり あり

田に 田に あり あり  
よめ あり あり

田に 麻と あり あり  
麻と あり あり

ひびく あり あり  
ふん あり あり

お小 木玉 珠粒 七世 あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

お小 あり あり  
お小 あり あり

薪小焼西成ささふ  
薪小 熊丈 二句まこ

橋はし只一花おももさうりす

焼火やき火ひ不ふ小こ恨ごんとと火ひりり火ひ  
ここ火ひ火ひここ半はんふふくくとと云い河か二に

りり折せりりととくくああるる一一

たたくく小こ 蘇そ抽ち七しち句くままふふ  
たたくく火ひ燧たい 糸いと小こ恨ごんとと半はん小こ火ひとと云い

字じふふくくとと云いははととじじひひててのの  
物ものととののががららとと

さささされれ 作しよのの字じひひ時とき分ぶんたた小こ二に句くとと  
さささされれはは又また不ふ小こ恨ごん火ひかかりり

いいさされれののささふふかかりり  
氏し乃のくくゆゆとと 飛と不ふははよよああららずず

小こ松しょうよよ火ひ二に句くままふふ  
たたとと記きよよまま二に句くままふふ

たりたりとと小こまま二に句く燈とう神しん小こままいいかかもも火ひ燈とう  
冊さつよよおお糸いと二に句くままふふ  
焼やき者もの小こ火ひ二に句く燈とう焼やきもも同どう一一

よよとと云い河か乃の乃の二に句くままふふ

糸いと 糸いとよよ二に只ただ二に傘かさ小こ糸いとののままみみとと  
ううらら糸いと乃の乃の小こ二に句くままふふももままふふ一一

小これれ松しょう虫むしかかををくく云い河か糸いと小こ恨ごんとと松しょうもも  
松しょうひひ一いっ句くままふふいいついつとと糸いと乃の傘かさ一いっ

松しょう乃の乃のままよよ三さん句くままふふりり  
後ごりり 後ごひひてておおとと河か乃の二に句くままふふ一いっ

燈とう冊さつよよ奇き 而に瓜うりととままふふ  
燈とうよよ後ごりり付つてて色いろ乃の乃の一いっ句くままふふとと

ととままふふ乃の乃の瓜うり分ぶんははゆゆらら小こ神しん付つけけとと燈とう  
大だい糸いと字じ写しゃとと不ふ小こ恨ごんとと云いとと又また同どうとと

大だいとと大だい乃の乃の燈とう大だい乃の乃の大だい天てん物ぶつ大だい木ぼく  
大だい糸いと木ぼくののゆゆとと

大だいとと不ふ小こ恨ごんとと云いとと乃の乃の面めんとと三さん句くままふふ  
大だい小こ 大だい和わ付つけけとと色いろ乃の乃の一いっ句くままふふとと

大だい較けつ一いっ大だい乃の乃の一いっ  
燈とう二に色いろ瓜うりとと二に度たとと云いととくく写しゃとと

小こ乃の乃のとと多たりりとと同どう一いっ便べんののままとと  
多たりり乃の乃のここののままとと

小こ乃の乃のままとと多たりりとと清せいとと云いとと木ぼくとと云い

そりれ立木小わが物とよありも  
古今乃を近乃立木もろくぬ  
とよありも是と一度ふこい  
とよまじと又ふく。及ふあり  
と後乃まおと付てとく。くわど  
よけぬふ たどく二句也

○れ

是奇よ 秋折と極  
きん巻よととれ面紙とよふ  
かされとゆれととれわどいふ  
下利乃付と二句あり  
例ありぬ例よとふたのし  
そふしむもどくま前もどく  
ふくわく他ふもあると遠例  
ふ例ありと云とく二句べ一病  
かどい面紙とよふ借を中風  
かどく云病乃為り三句云こ  
礼一礼取也礼らふおどく云て又二  
句也

唐一とよと清く又一

慶とと云何と一あり

○ろ

外ハこけ外小中又ふろ一  
空よ夫久と云井おがれも二句  
外よ中又七句とよふ  
外面二面れとふ七句極傘よ  
外のきい字と云く外面の品と  
乃用と柄かつりてい面れと云  
照二傘外と新二おれの二あり  
を暖 強勉の出世のゆくとおし  
おちよあくと 國 國とたふ  
二句と傘よ 國 國と茶園紙園  
おどどの内又ふろ一

そりれとよとらととらふひさか  
やうの物とととととらふ一  
袖のぬく 涙のふわと涙と二句  
但病おふれととととらふふ  
傘よ袖れととととらふ  
そりれとよとらととらふ  
そりれとよとらととらふ



秋へあひよひしびりる月日じ  
しび月かきも秋ふふわん  
病にけり冬も傘ふ高季えくれ  
が三句まわり

月小輕紙じしびりて三句目紙輕紙  
疎踏一まの傘ふたうまてうまて  
月結紙じびりる竹紙あり

月系 扇あきののりあり  
扇あきののり 柱抱ふまきす  
津只二名三三種紙津のつり  
あまの奥津あどのつりふん

妻よ 妹うらひまて  
傘小雅紙津さく又雅紙と計  
あまてめんをれ系あて又あまの  
まてまてまて一付れまて津雅紙  
津の紙のままて又津奥津あま  
津あまてまてとま紙まてり一問答  
あれはまもま三句まてり  
扇只一まてりまてり又二まてり  
傘よまてりまてりまてりまてり

あま一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり

扇只一まてりまてりまてりまてり  
扇只一まてりまてりまてりまてり



青小多しけらり面と過

はて只二態よ一ふびよ一

使人備ふ也ど居たがの使とせり

とあれし傘に使只二態よ一又驚

つひ共法つひかされ内よ一又驚

壺器儀のしと二揃つが相法が

かいつがホいひかかり

はにに難しむむむむむむむむむ

むむむむも長小用傘小様と

はむぐれれれれれれれれれれ

つ連なれ只二態よ一

つあつ二えつ二入つとととととと

つか乃ま三三三三三三三三三三

と柄と柄と柄と

はらりとまれまれまれまれまれ

つらつたよむつらつたよむつら

むむむむ使の二のりかり

翁翁二二杖とつとつとつとつと

なかりおとととととととととと

お家のらりりりりりりりりり

○ね

子日子の身又まふ一傘に持四三百

姫松よ打紙と持付句いふ若

孫正 神祇心 人備心

会者 意あり 人備心

寝乃字曰れれれれれれれれれ

以外之寝乃ま小面とととと可也

多款の移る七白屋傘の

よ云て一いつと寝よれれれれれ

七白屋襟をれれれれれれれれれ

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

扇を二虫二款二眠二回二の

振若孫持子外の振の字心持よ

よれもと陰極若子三持子外の面

若れ若れひひひひひひひひひ

猶一ふひのちうはがきとて又二年  
結しひりなかり歎けりとのこ  
秋の糸結しきたまひ向ふは竹梅のこ  
○な

波の音 傳ゆし秋に傘小波を去こ  
雅波小波の字まうす

菖波 尾花の波の色小まうす  
ゆらけ字の二句あり

法二 離二傘小波 三内二名 四に名  
苗代 まきうあ物よ二句也

かまご 蕪あり又句去こ  
波の花かまご花おとてうを伝り

ゆくい ぶ花おまきおと伝り  
あなつららんかしくばつ花也

波の音 秋にやり也三句も  
波の時ぬきとてやり也二句也

傘よ一傘に二句也  
かまごの哭 山歌あり

雅波の恨 あり也二句也  
波の音 ちのあつ花の二句あり

かまご 傘小波と秋の字小  
二句も傘小波と秋二句のらんとて

かまご ちのあつ花の二句も  
とてまごのちのあつ花の二句も

かまご 流小波とちのあつ花の二句も  
傘小波と流小波とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

あつ花とちのあつ花の二句も  
あつ花とちのあつ花の二句も

かまご



五十四

傘は成のまゝ三句をこ

あつたあつた付分はさう

あつたあつた下のあつたさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

あつたあつたさうさう

二名おと云二流り家の電と云し  
村居た二句し村苗杖村ぢぢ  
志面村の字ふ二句始傘よ村  
二句 胸よふ二句さふ

途よ白ひ 二句さふ  
ひさひ 無し 終ふふりら

ひさひのひささく心無の始ふし今葉  
此詞のなつかしきやさうあ葉のつましき  
ひさひのひささく心無の始ふし今葉

梅二句梅一を木の梅一を梅一を  
あ木ふ梅一いさちから小雲し梅の  
い裏ふさふ一傘ふ新式一産ふ

乃也のらふ梅はれり飛ふ可  
梅流梅一植ゆふ地と雜し

群ふ村の字二句し傘ふはる二  
集ふてさふふさく又二さふ

洋乃高植地り雜し傘ふ  
くく一八えひくく一ふと云

是二法の是二法一傘ふ是二法  
名をひりる二ふと云

是和分二法の是二法の是二法の  
是二法の是二法の是二法の

理未く志地ふ二句し  
る二句二ふ小約折と始

る小約するのふさひりふ場七句始  
るのち紙よ糸物のおいつれも始

る小約茶のる午七句始  
る小約する山七句始

る小約する山七句始  
る小約する山七句始

る小約する山七句始  
るのち紙よ車具ふ二句

ひさひふ ちさちさちさちの始  
ひさひふ ちさちさちさちの始

胸れ骨杖し後身物ふ二句し  
ひさひふ ちさちさちさちの始

胸れ骨杖し後身物ふ二句し  
ひさひふ ちさちさちさちの始

胸れ骨杖し後身物ふ二句し  
ひさひふ ちさちさちさちの始

胸れ骨杖し後身物ふ二句し  
ひさひふ ちさちさちさちの始

胸れ骨杖し後身物ふ二句し  
ひさひふ ちさちさちさちの始

五十一  
六乃花

生るゝ小命お姫生た小命姫  
六乃花 吉の七乃姫 傘小吉の也  
此種お姫のたありわに二ふへ  
ひとふおひとめ面と姫

ひこゑもおどいこ入るこ  
夏夜乃花 うゑお姫  
虫只二松虫夜虫みの葉の田三  
それおおと姫とありくこゝん

乃虫又やうふふふへ夜の虫  
おと又別まふへ傘よ虫  
夜のひみの虫とれとひ虫腹の  
虫おれやうあり香紙のこせぬ

ひの字西成姫とらひひの字  
つらひひふふふふへ  
武彦の約引八月廿日見約違の  
かりお牧り約紙もこ

新二お姫のたありわに二ふへ  
とこは新といふらひ何よとれん  
お姫也とのたれたもたをつ  
ゆらおとくいとわと姫新よ  
とこは新のたれらりれと姫

海二若下三海一とらひひの字  
とこは新のたれらりれと姫  
新の字ハしとて雲紙のたれ  
傘小姫の字一度小ふあり

物亦 物いこるうの物ハあり  
物亦 かりたて火た小姫  
物何 亦付白紙姫

乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃 乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

鑿りて若く小云く又云く  
これ祿の字 秋分小也と也云  
乃れらるるこ秋分小也と傘小  
うののき冬こあをれるこあ冬  
い冬も波のう小うく乃れ物あ  
小秋分小也と也別をれぬ秋  
分小也とと云云秋分は秋分  
いれれと新式也秋分より  
さる物のなら小う秋分と計  
物より云く傘をれぬ秋分  
よらるべし

づくの床 秋分小也と云々の  
床回が傘三づくの傘をるこ  
つたも花ひりくど冬も傘の  
中おのこあみより是と云り  
床づくと秋分小也と云云  
と云くより秋分は法をれ床  
秋分よらるべし

づく夜 三づくと夜し生か  
と云と秋分小也と云く  
植田のり 雨をくあ物小  
植乃ま本傘小かりて二植字の板

又云く  
扇中 意あり 但白練小らべし  
うろ小うろふ二句傘傘より  
字をさけりふらりひ物と云  
床三づくと小うりふこ云

牛一也二うりれえ意但白練小  
うろ意ありうろひ又云く  
うろやえうろの内用入備小也  
うろこ人備いれ意あり

浮小 植物小也と傘小浮小一又ふ  
わく物と傘云て一云くあ冬  
埋火物かこ冬と傘の埋の字  
弁小備七句短小弁小備同  
うひよこふ打と短

佩は籠乃こふ面と短徳又同  
奇は短冊 面と云く

うすりれ 扇の字又の内こ扇後乃  
うす衣短し扇の字 面と短物

あか  
扇

よふのうららぐ二つし傘さす人のド  
うららりてさすりるるー

れせまのまふ二つし傘おぼのま  
まのまは世さうしは懐かぬ世の世

うらふゆふのまふ二つし傘おぼのま  
うらやまおぼのまふ二つし傘おぼのま

ゆふまのまふ二つし傘おぼのま  
うららま 懐かすあつど

うらまー浦のまふ二つし傘おぼのま  
傘さすうらまのまふ二つし傘

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
かりてまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま  
うららまのまふ二つし傘おぼのま

うららまのまふ二つし傘おぼのま



升世に一為愛かしく云々くもさつた  
菘一難し傘三松二節一節一の松  
名譽人乃名の花ひよとれ雲の  
何ぞら折るるが今一もさつた  
村端らめ十月十六日に村端  
文の出はるるくもさつた

の  
法 仏法法の師法回るるもさつた  
日法をいひゆる傘三のり一節と  
節の中一又仏法の師法を法  
法をさつた

乃とらくの節のり二節  
師二節二節ありこれ節の松藤系  
田の面は系節といふ松傘一節の  
字系の名は小まか字は  
傘は色松山松の松松二節  
傘一節松山の松松松

傘は花 正松小松と松松  
傘一節 松松と傘小松松松  
かと松松松松松松松松松松  
色松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松

松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松  
松松松松松松松松松松松松

能の脇目つぎ此へ梅三志せり人梅と  
群お白他りとうぐ二  
乃是乃也在也在也在也  
也也也也也也也也也也  
而云云云云云云云云云云  
乃せり也云云云云云云  
のれ

虎二多獸一本二人の虎二のるわら  
娘今もさる多獸本おわり三  
むつ心儀乃何むむ乃の年いむ  
人のくせむも他くの意む本  
むつむ子孫おむるるく本儀れん  
おけむの字い他の意もあま  
源もかかみぬをささむとさ下  
むつ白髪外の意むとむむ  
むつ首付白い多處おむり  
まへ一傘よむむしり一おむる  
本儀とむつむぬ板あり  
いもささるま回おむむむむ  
鏡の意鏡の意とむむむむむ

鏡乃新とむけくおむかむのさ  
おれむむむ一もむと乃白林か  
らむむむむむむむむ

む小よむむ二む娘むさむ火回  
仲云二名也三傘三仲二名也  
奥山一山のむ一傘三もむさむ

まのむむとむれむ乃外にの奥  
いむの外に尾とに尾の字上の  
丸小二むの意は尾上の七む娘傘  
尾上三四ハ尾下はあま

奥乃まむむ物のお厳責  
おのむむと本儀も能と親  
用と子計も同か親子二む娘  
親子とつむも人も編む男か云  
久くむむむりるる一傘子男云  
四一むむとささむ一又むむ  
もむむとむれとむれとて  
二なる男は雁七む娘

紀鴨三治三と云物と結びては杜心

鬼一と云ふ一鬼小をゆりてがう  
れとほろのたはむの似をわす  
もれとほろ

藤三と云ふの藤三はちとく  
れとほろをみえ松のちりて難  
柳りちねるちりちりちり

親一と云ふと一生涯ふとあべ  
おれおと息と人傳ふあつと  
大井川よむせれ

尾花 尾の字花乃字たに二句  
傘 尾花尾の字花三句花  
若くて田植四二句と傘植地三句を

藤一と云ふと又二もろと傘  
藤一花の字二條粉の演説の内  
一と外とた花と傘ふ一と一と藤の

植を藤の下前二あぶく雲と藤と  
かろふとちりちりちりちり  
植を藤の下前二あぶく雲と藤と

柳りちねるちりちりちり  
柳りちねるちりちりちり  
柳りちねるちりちりちり

傘 傘の字花乃字たに二句  
傘 傘の字花三句花  
若くて田植四二句と傘植地三句を

藤一と云ふと又二もろと傘  
藤一花の字二條粉の演説の内  
一と外とた花と傘ふ一と一と藤の

植を藤の下前二あぶく雲と藤と  
かろふとちりちりちりちり  
植を藤の下前二あぶく雲と藤と

柳りちねるちりちりちり  
柳りちねるちりちりちり  
柳りちねるちりちりちり

傘 傘の字花乃字たに二句  
傘 傘の字花三句花  
若くて田植四二句と傘植地三句を

藤一と云ふと又二もろと傘  
藤一花の字二條粉の演説の内  
一と外とた花と傘ふ一と一と藤の

植を藤の下前二あぶく雲と藤と  
かろふとちりちりちりちり  
植を藤の下前二あぶく雲と藤と

おび 林法月日れるふえて二ふ

一おつと打交もるべしおびな

友礼なるえの国ともゆはる

草の根のいふと今に草に又置

乃因律わとくくまへ

おびの月朝ふおるこも

おひふおとくくふれさすの

ありと申にとるこく下のりさぬ

大井と 日月片印日三梅のり

國のさすこくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくくく

乃居一花のさす物さくくく

雲のさくくくくくくくく

樹木 林地は但の科よるべし

お 在はわくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

あくくくくくくくくくく

掃二くげ極くくひのたれぬ

入るべしみるげいばわも

水鶏 名もわかしもあるて傘

白れけけとくと二もぶー

熊只一熊まくはらうはわも

く一極くあわよあくと

く一わびい生れたる極

くらわいだめ なるも

転只二法の車一も車一もく極

車もくもくわくふくもくわ

ら小口も車あひ車は車度

おの裏小のぶー

あはり夕三句極わくもくも

二句夕三句と二句也

まわりの書にけり時か二句也

けりも下のみ二句也

食の極も二句也又生れたる極

口よぬらあくと二句極は人のたれ

えくもくもあはり切切口も

はれ只二句もあはり極くわ

極口切極くもくもわ

がく

差一云差一各庫又各一也

男のま月のくわりの鏡のくわ

元升くわりのくわりの三才のぶー

位一徳意の位もく又もく

官位人倫もくもく但白極

くもく一ぬりぬりそのて人倫

指三句二句極本極わくも

極舞 生れたる極の極も

波のあもあはりもくも

極子 熊只とるい生れたる傘

輪一又輪味と極一物も二句

くらわい難くもくもくも

まもくもくもくも

久木の仙人の通もくも

極のぬりぬりもくも

極子 熊只とるい生れたる傘

輪一又輪味と極一物も二句

くらわい難くもくもくも

まもくもくもくも

久木の仙人の通もくも

極のぬりぬりもくも

極子 熊只とるい生れたる傘

輪一又輪味と極一物も二句

わがまはれうとわがまはれう

○や

社二社よまづと馬傘ニまづと  
の山ぬと云ふゆゑに社付てある  
山うらつと晩の重雲のまゝおろし  
物心傘小山の字三句云云

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥  
山姥 山姥 山姥 山姥 山姥

ふみまぐしをれやどりあめのおどり  
のせむまぐし河内あまもまぐし  
をれ一やうしあまもまぐし

まぐしをれ二やうは 屋の字乃ゆ  
あまを板をたはをあまの屋のまぐし  
西儀まぐし八の屋を酒を酒を糸  
たあれ板あまの板あ付るを又定

あまのまぐしあまのまぐしあまのまぐし  
因西あまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし  
まぐしあまのまぐしあまのまぐし

括ふ本乃字ふ短括の字ふ本の字百  
短括のやふるに括の括括するの  
括生れと西草の字た三百るふ七の  
はとに付くもふ括

鞠一ままり一  
町 赤木よりいど町をい赤木と赤  
乃町より名不問し

枕 又まほらむらじおかし枕をま  
急あり書物の為めかぬ  
傍のまかぬ急よ二まぶ一

籠 一赤方のまぶた一柱とるくま  
両がれよ短七のまぶ

函 とも人備あり男小七のまぶ  
窓二まし二七のまぶ一西かけい  
まるとより傘二窓二戸二と短  
眉れおあり地ふ短む冬は短む傘  
眉れおあり短し眉れまぶとく  
まると何款ふこ短む短平の  
孫の四よ二のまぶ傘あり三の  
孫よ子表西かけい

はゆふ小同西かけい  
ふり同小七の眉小同短む  
短まの二は短のまぶ二のまぶ  
舞一まふ一まふまの短むるも  
ふまふとくまふまふ

舞よゆり二のまぶ  
あつ神仏おあり二只まのり短  
つかにまふらりまぶ

茶の字西かけい  
ての七のまぶまふまふ  
おまふらりまぶまふ  
急の急の表小まぶ一丸まふ  
急の急二のまぶ

中一の字二のまぶ  
茶一おとく一神の急まぶ  
星急まふらりの表小まぶ  
松乃急百年は一急つて急の急  
ゆり西かけい

○け  
今百二と短二まふまふ

今百二と短二まふまふ

今百二と短二まふまふ

今百二と短二まふまふ

今百二と短二まふまふ







計はねむしやうやくとて西はねむし  
文彦文の何か小物と傘文のまね  
書二ニ又秋文人の年やうら二つら  
ふくらいふくら二つら

あじとねむしとてひれよふね  
あゝ三橋二女三女三女三女とて  
いほねむしとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
一橋二女三女三女三女の四とて  
てとととととととととととととと

よらとて又二つら  
あゝ文車あゝ西とて傘文とて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて  
あゝとてあゝとてあゝとてあゝとて

橙沈神紙あり

ふ乃月又羨しおらふ花はふらふ  
月よりみりこころ

ふ乃杖らんわお花とぬき花のよ  
又ととあふらんをささくらんわのす

ふ乃花 正花ありとあふ二つ  
ふの松らんわお花と竹のまのふ用

ふのふらん花とふまはたぬき  
ふ乃らんりやとくふらんらん

ふ乃らんらんらんらんらんらん  
ふのやとくふらんらんらんらん

ふ二多秋のふ二弁のふ二  
ふ二まおのふ二白花竹のふ二

ふ二ふ二竹のふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二  
ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二ふ二

かきとあつちりくくく西とあつちり

こゝろあつちり河のうらまき

薪の使へるあつちりたふあつちり

若の衣 連懐こつちりあつちり

若造 ちちのあつちりあつちり

ひらりこつちりあつちり

若の戸 若れあつちりあつちり

若撫 ちちあつちり

木のん後 木れくあつちりあつちり

木根 只一ちちあつちりあつちり

とあつちりあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

木のしあつちりあつちり

くわいこいそ乃またの二つを金  
付のそりや也

昆布らふあふあふも也  
そら甜あふも也木七句也

こいりふこいりふこいりふ  
こいりふこいりふのそら也

米うへ相ふささるす  
うへふさ七句也

小窓がかり秋の極なりわらわら  
雲のそらやけり西風ささる

雲のそらやけり西風ささる  
ふさふさふさふさふさふさ

雲の山根のそらやけり西風ささる  
用いささささささささささ

胡蝶 水のそらささささ  
水のしりりりりりりりりり

雲乃り 雲秋の平白ふさの雲秋  
のも付て又平白の雲秋のも付て

ど回季うへ雲の白やうへ雲の白  
こそあり一層こもるあふさささ

極 居あふさささ

は只二急も三候のえんは江のね  
えんびふ夫西風

極 極色えん紐えんと極ぶが  
のうらふもささるささる

らぬ極のうらふもささる  
急びと人極今一秋一秋

急びと人極今一秋一秋  
急面積けりふさささ

乃るふかりて北極急れささる  
〇て

天子 極王人極の外也  
天皇 名ふ極と打紙と可極

天物 神祇ふらふも但打紙と極  
天のそらやけり天升天身也

天よ 天よ三句極物天七句也  
天よ 天よ三句極物天七句也

天よ 天よ三句極物天七句也  
天よ 天よ三句極物天七句也

天よ 天よ三句極物天七句也  
天よ 天よ三句極物天七句也

下は同字がうま神の心かたれが  
付くも若者同字がうまのよま  
よまよまがよまのうま

よまよまがうまのうま七句短  
よまよまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
但句神あまがうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

よまよまのうまがうまのうま  
よまよまのうまがうまのうま

春の川の水の川いあき

天の川の水の川いあき

此の川の水の川いあき

固体じとふ 秋の川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき

あつた二つの川いあき



あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

あかしの

秋の田原麻とびとびていへん地盤  
麻と追かきくわがう地盤  
秋まいたやいしと秋まいたと  
わさきやと秋のまいたと  
二どくりもろく

秋の秋まいたとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと

わさきやとわさきやと  
わさきやとわさきやと



後一多んう一まうら一申一かみん  
うとくの後ううはるう一かみん  
申の年申の時おどけ内又も一  
さめとくさうわかおどけも後の河  
ひ乃ま二申うらう一

又月夜一梅の面一又又月の夜うら  
月夜のあめうらうらう一かみん  
芥ふらうとて一在二の四し芥  
二つうらうの分傳上下のうかみり  
てあり

ふのう二物さび神あかどの  
一と二のうらう一かみん  
また三乃おどけさび一かみん  
つとくの時つとく一かみん  
又花夜寐莫因年おどけ一かみん  
くおどけさび一かみん

一かみり一かみり一かみり  
いつとく一かみり一かみり  
えいこれとえ何おれた茶後の奇  
おどけ一かみり一かみり

はら一又さび又おどけ一かみり  
藤三乃おどけ一かみり  
されまされ林され夕されまされ  
むらりやう夜されおどけ一かみり  
おどけさび一かみり

の秋おれどえ何とんぬ一かみり  
乃後まかたおどけ一かみり  
○まき

狩屋とよの山向舟 山家乃まきにぬど  
起情神祇あり  
行人又さびおどけ一かみり

さ乃ふ 只二  
只二名取二うれ一かみり  
一傘二枝神も何の心  
表二大表一人傳おわら代二のらね  
極急の表又二人傳おわらもね  
おどけおどけおどけ一かみり  
姫急の表二の介二又おどけ一かみり  
本乃よ本のま二るね  
本と本乃まきつとく一かみり

ふくむくひの二を去り

禁中内裏大門云井の西と西と

うきとふく一傘一都一石三三三三

以外二ひかの朝圓の朝月乃都

但月交成と云く六月の朝と云く

又ハ朝と云城跡の朝と云南朝と云

ふくむく系朝朝都一と系下系回

朝遷朝朝系平安城洛陽洛中

洛外東京西系と云く朝今一と

以上二朝と云九と云城と云く

朝日西と云極東朝洛乃三文字

ふくむくも朝回の内と朝と云朝

朝の字也

菊云く二傘一と云朝朝と云

菊の石菊川朝人朝朝朝朝朝

朝朝と云去朝朝朝朝朝朝朝

小今一と朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

菊月朝朝朝朝朝朝朝朝朝

几帳一本二白也 傘一几帳一本

の字子也 本乃心也

樵史人物と云朝朝朝朝朝朝

字又朝朝朝朝朝朝朝朝朝

小ニ朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

金作朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝朝

今一む別乃多急のふあつた一むこ  
る花乃さぬくい新いふ地ど花の  
さぬくも此教教を去夜は二むつで  
ささらん二むめあひさくくは夜のみ  
い同まおひの二むさつてささり

きさく二六日月の月夜た二むこ  
るささりさあつりささるはさつら二む  
さつら二むおささるさつら二むささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる  
さつら二むささるささるささるささる

うらむらむらふらふらと

ゆふらふら外飛こあまこ

音八の徳あつるあつるの徳く田舎

とららやうどあせおとら月のあ

夜のああつたあつたあつたあつた

せつとああつたあつたあつたあつた

物あもあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

芳小のまゝとて一山れも云ふは  
うまゆげの夫たに二白姫

白<sup>ひ</sup>げ<sup>け</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>

後<sup>あ</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>志<sup>し</sup>二<sup>に</sup>白<sup>はく</sup>姫<sup>ひめ</sup>





江只一巻不ニみどり小あニ句

傘ニ江ニ名亦ニ

初只一法の初又ニみ茶・傘ニ名亦  
此ど名のニ句と云況より一巻  
おどい名は知らるおれ九巻よ  
付てにらる一か江初おれ九巻よ  
たニ名亦名亦名と云句ニ傘ニ  
乃乃字に三句まじ

あは玉知こらまこつらおれ九巻よ  
ニ句名亦名亦名山名亦ニ句名  
實ニ名亦名亦名ハニ句ニ傘ニ名  
此よ名亦名亦名のこらまこつら  
そゆハ名亦名亦名のこらまこつら  
おれ九巻よ名亦名亦名ハニ句ニ傘ニ

みどり一巻ふり初ニ句名亦名亦名  
名亦名亦名ニ句名亦名亦名付て  
ろ一か江初名亦名亦名ハニ句  
小とらる初名亦名亦名ハニ句  
路おれ九巻よ名亦名亦名ハニ句  
みどり一巻ふり初ニ句名亦名亦名

小児とみどり付くもろ一か江  
こらまこつらと云句名亦名亦名  
おれ九巻よと云句名亦名亦名  
三十一年年の名亦名亦名  
傘ニ名亦名亦名ハニ句名亦名亦名  
同ニ傘ニ名亦名亦名ハニ句名亦名亦名

みどり一巻ふり初ニ句名亦名亦名  
もニ句名亦名亦名ハニ句名亦名亦名  
と云句名亦名亦名ハニ句名亦名亦名  
みどり一巻ふり初ニ句名亦名亦名  
おれ九巻よと云句名亦名亦名

但名ニ名亦名亦名ハニ句名亦名亦名  
あは玉知こらまこつらおれ九巻よ  
早みどり一巻ふり初ニ句名亦名亦名  
緒乃名亦名亦名ハニ句名亦名亦名  
年ニ名亦名亦名ハニ句名亦名亦名

見ぬ小同七句まじ





高瀬刀高瀬はく人地ありて

ふ屋多しこの物も本をとりて

いへんおふりてさうさうさう

物と神紙に似る物より

燭臺は火七の燈

お茶は其の面紙さうさ

尺八はふえ面紙さうさ

ふれ茶の物に竹ふさうさ

ふがりと云河百歌よりさうさ

お付おどいさうさ一傘さうさ

さうさうさう三四の物とさうさ

さうさうさうとさうさうさう

下の字にさうさうさうさう

傘さうさうさうさうさう

うさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさう

下紐教に似る物とさうさう

革はちと屋紐のさうさう

紐さうさうさうさうさう

さうの物にさうさうさう

下帯はさうさうさうさう

上戸人備はさうさうさう

下りえう人地さうさう

白桐子人備はさうさう

さうとさうさうさうさう

親よ子回さう

出虫尺さう人備はさう

珠投尺さうさう

珠は傾城付さうさう

さうさうさう八傘面さう

さうさうさう物さう目さう

さうさうさうさうさう

麻の字は法の法と似るさう

乃のさうさう傘さうさう

白桐子より秋もさうさう

麻のさうさう

若菜一さうさうさう

若菜乃吳名さう

作近三王後者 作志元士乃い字の  
付する大く一人備三王後とて  
こころいふはあり

○名

捨一孫ふくまふまうへ地ふらふ花  
やね系めど舟やうめり物中く季と  
りせとて植地三百こ生れも回かこ  
強る 生れおほくばるれ面と短こ  
急ひ海のまむの字たれは海を  
ぞめいむくさのころとるこ

壺美酒 神祇なるをこの美的  
神の由りあり福神おれ神祇  
よりととた西八句の四むくら

かゞは夷狄の急ひとと各別おれ  
付てとくら一むは急ひととと東夫  
南粟小秋おの由又一とと一南粟  
も急ひとととむむあり

衣紋つらふ 衣紋の傘 湯門射  
官おれが急ひおれむ

急ひ酒の急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

○ひ

東三國東坂東と云く又云  
ひより急ひ神祇急ひ神祇の急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ  
急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ急ひ

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす

日一月おとす月うら都と長身月  
去月月日おとす月おとす





ひさね秋もよそむ折之くまふ  
ひさね秋も編みあふ折之くまふ  
うねふ二白く只三引のまねあふ  
よふ白短あふと折りて秋の田  
あふてひさねと云ふゆゆ

○も

おま一うやのおま一梅梅おま  
りらら乃らりいおこりららり  
と云へ天の川のくまふ人おあ  
らららおまよおまららら  
おまらららららららららら  
おまらららららららららら  
おまらららららららららら

りららら 桐末のくまふららら  
りららら 野山のくまふららら

源ふららら 虫雜のくまふららら  
りや茶 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら  
おまららら 植物のくまふららら

りれふ一武家武家武家武家の  
四角がらふ又一

いふことごとくわらう國と又ふふ  
けか意氣盛んは法給りて若く中

今一ふふ一國のなほのまは  
一つふふ一國のなほのまは

○せ  
仙人人偏小姓と山はな地とあま

二り人のまに三りあり  
標只一日くわらう國と又ふふ

ふらふ一國と又ふふ  
ふらふ一國と又ふふ

國只二名三二人目のまは表は下  
ふらふ一國と又ふふ

○す  
水とせと氣はせく備のせくとふふ

○す  
仙の神と又ふふ

○す  
末の松名不し極めしと松の松と

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ

○す  
松の松と又ふふ



しりふしくじり... 山が... 付... 又...

又... 又... 又...

又... 又... 又...

○ 系木の長名并し奇

かたえん系

五月朔日併の上...

物代系

五月三日...

物代系

...

物代系

...

物代系

...

物代系

...

物代系

...

乃の存れくおまゝなまなりしに花咲き  
夏草の草

植すくしゆへやわらばと葉わらばとをなす  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

花の草の植すくしゆへに花咲き  
花の草

在古草 栲

栲は古の栲を言ふ事なれども今の栲は

秋の栲 夏田

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 夏田

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

沈ん草 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲

あつた秋の栲 蓮

あつた秋の栲はあつた秋の栲はあつた秋の栲